

かけはし



ひとりひとり
の
働く力タチ



特集「働き方」について考える

- P 2.3 今時大学生の「働き方」
- P 4.5 子育て世代の「働き方」
- P 6.7 わたしたちの「働き方」

【編集・発行】

彦根市男女共同参画センター「ウィズ」

〒522-0041 彦根市平田町670

TEL/FAX 0749-24-3529

E-mail with.hikone@oboe.ocn.ne.jp

【編集委員】 浜口琴美 沢村保代 太治昭吾

【表紙イラスト】 浜口琴美

2018年2月1日発行

大人が考えること
大学生が考えること

大学生にとっての就職の価値

働き方を探す世代、大学生が抱えている就職への悩みや不安。周りの大人にわかってもらえそうでわかつてもられない、そんな気持ちを大学生の目線でまとめてみました。

なんなく、明るい未来が見えない大学生たち

今、大学生は就職活動に対する漠然とした不安を抱えています。自分たちの将来に対する不安です。「いつの大学生だってそうだ」と思われるかもしれません。しかし、大切なのはこの“漠然とした”というところです。大学生は「なんとなく将来が不安」だと思っています。

そう！なんとなく…です

Q. どうしてそのような不安を抱くのでしょうか？

A. 大学生にとって就職活動の“成功”が何か分からなくなってきたからです。
大学生にとって、多くの人が目指すべき理想の就職という像は失われつつあるのです。

就職活動の“成功”とは何なのでしょうか？
これまでと今の“成功”を比べて考えてみたいと思います。

1. 就職活動の“成功”は変わりつつある

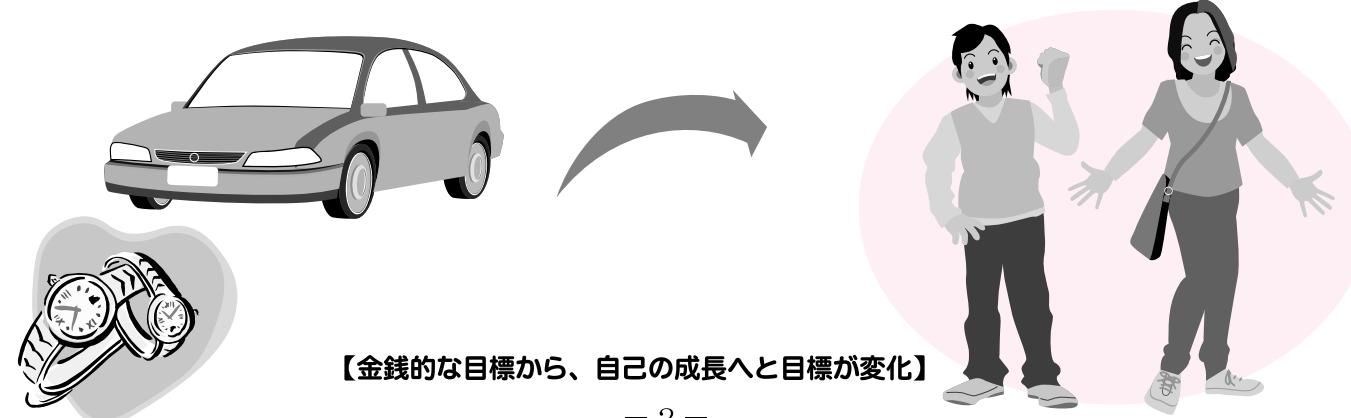
これまでの就職活動における“成功”とは、一般的に大企業に就職して高い収入を得ることでした。それに対し、今の就職活動における“成功”は広く自分のしたいことができるということです。

つまり、収入を得ることが大きな目的ではないのです。

“家”への帰属意識が薄れ、個人としての意識が強まっている今において、もはや大きな家を買い、高級な車や時計を買うということはステータスではありません。

もちろん、高い収入を得ることを目標にしている大学生もいます。

ただ、そういった大学生も純粋に収入を得ることだけが目的である場合に加えて、高い収入を得ることで自己実現を目指すという考え方をしている場合があります。



2. 新しい働き方の例

昨今、インターネットの普及によってどんどん新しい働き方が生まれています。企業に属さずに仕事をするということも珍しくありません。このような新しい働き方の例として、クラウドソーシングを紹介します。

クラウドソーシングとは、仕事の依頼主がクラウドソーシングサイトに案件を掲載し、その記事を見て仕事を引き受けたいと思った人がそこへ応募するという仕組みです。

例えば、企業が新規事業のロゴ製作の依頼を掲載すると、デザイナーを生業とする人から趣味でデザインをしている人まで、様々な人からの応募があります。

中には、コンペティション形式*で入選した人にのみ報酬が支払われる場合もあります。

*コンペティション…競争、競技会の意

【こうした働き方も一つの就職なのです。】

滋賀大学に通うKさんの意見

自分は大企業に入つて高収入を得るよりも、自分のしたいことができるほうが良い。その一方で、高収入を得るほうが良いという社会的な価値観も持ち合せている。だから、自分の考え方で本当に良いのか多少不安な気持ちがある。自分のしたいことで高収入を得られるならば言ふことはないが、実際のところなかなかそう上手くはいかないだろう。
どちらかを選ぶなら、やっぱり自分のしたいの方を選びたいと考えている。

3. まとめ

時代の変化に伴い、大学生が“働き方”に対して持つ価値観も変わってきています。しかし、世間の価値観はそんなにすぐには変わりません。まだ慣習的な考え方方が根強く残っています。だから、周りの大人や社会は無意識に漂う“成功像”を思いながら大学生が大企業に就職することを称えるし、そうでない者には「なっていない」と評価を下すのです。

大学生はこうした周囲の持つ価値観と、自分の中の価値観とのギャップのせいで漠然とした、“なんとなく”的の不安を抱いてしまいます。

就職氷河期を脱したはずの大学生が就職に対して不安になってしまうのは、自分の考える“成功”が世間に認められないかもしれないからです。

私は、今後の社会を担う大学生が見えない何かに怯えていることは非常にもったいないことだと感じています。そのため、世間には大学生の考え方が変化していることを知つてもらい、また大学生はこうした世間とのギャップに尻込みすることなく、自分の価値観を信じて目指したい道を歩んでほしいと思います。

子育て世代【女性の働くカタチ】

結婚や出産を機に専業主婦になった女性が、再び働くことを考えるタイミングは子どもの就園・就学時期であることが多いようです。

スキルやライフスタイルが多様化してきている今、どんな働き方があるのか、働くことで求めているものは何か?など、働くカタチについてリサーチしました。

Q ① どんな働き方ですか?

② この働き方を選んだ理由は?

③ あなたにとってこの働き方の魅力は?

④ ワーク・ライフ・バランスを保つために工夫していること

⑤ あなたにとって“働く”とは?



フルタイム勤務

製造業会社の機械設計 2児の母 (19歳・小学2年)

- ①8時30分～17時15分が就業時間。19時くらいまでの残業あり。土日は基本的に休み。
- ②子どもの養育のため。女性も働いている家系だったので働くのが当たり前だったから。
- ③しっかりとお給料がもらえる。仕事の納期が3ヶ月くらいあるので、日々のスケジュール調整がしやすい。
- ④基本的に動いている方がストレスにならない。本を読んだりすることで心のバランスは保っている。
- ⑤生計を立てる。プラス人とつながりがもてる。社会の役に立つこと。

パート勤務

コドモフクひよこ屋 勤務 6児の母 (高3・高1・中3・中1・小5・小3)

- ①自分の空いている時間で週2日。9時から16時まで。子どもの病気・行事等を優先。
- ②育児を優先しているため、融通がききやすい働き方をしたかった。また20年働くことから遠ざかっていて再び働くには勇気が必要だが、週2日の働き方は二の足を踏まずに気軽に踏み出すことができた。
- ③自分の切り替えが出来る大切な時間。自分を必要してくれる人がいるという嬉しい実感。
- ④元気でいること。
- ⑤自分が様々なことを吸収して成長できる。人の輪が広がる。



起業

株式会社 いと 設立 3児の母 (中学1年・小学3年・小学1年)

- ①朝7時～17時くらいまで。土日も働いていることが多い。空いている時間はフルに活用。
- ②パートナーの度重なる病気・怪我で万が一の時に1人で3児を育てることに不安があった。そこで、どうしたらお金を稼げるか、どうしたら仕事を作っていくか勉強したいと思ったから。
- ③良くも悪くも自己責任。人のせいにしなくなる。すべて自分で納得して進められる。自分がどうしたいかいつも考えるようになった。
- ④常に動いているが、健康を保つことには注意を払っている。
- ⑤自分の一番生きやすい方法を探すこと。



株式会社 いと (2013年設立)

コワーキングスペースの運営・エディブルフラワー生産販売

※ コワーキングスペース…独立して働く個人が、机・椅子・ネットワーク設備などの実務環境を共有しながら仕事を行う場所
※ エディブルフラワー …食べることのできる花のこと

専業主婦

3児の母 (中学1年・小学5年・小学3年)

- ①家事は必要最小限にこなす。主婦としての休日はない。
- ②小さい頃から周囲に働いている女性がいなかったので、女性は家にいるものという感覚が強かつた。
- ③時間の制限が少なく、予定を入れやすい。自分の興味のあることに関して時間を使うことができる。
- ④子どもが登校してから帰宅するまでは自分の時間として有意義に過ごしててる。
- ⑤自分の存在が確認できる。自由になるお金ができる。

小商い

※小商い…小規模経営の商人。こあきんど

金森商店 (個人事業主) 3児の母 (小学2年・年中5歳・1歳)

- ①クッキー製造・納品で週2、3回午前中。子どもの誕生・成長に合わせて増やしたり減らしたりしている。
- ②妊娠を機に専業主婦になったが、家にいると寂しかった。そこで、これまでの経験と、やっていて楽しいこと、自宅でできること、お金になりそうなことを組み合わせてみようと思った。
- ③一番やりたいことは子育て。でも、他の人ともつながりたいので、自分で時間の調節が出来ることが魅力。
- ④仕事量をライフステージによって調整する。あとは自分が機嫌がいいことが一番いいのでそこを意識する。
- ⑤赤字にならないように事業を続ける。喜んでくれる人がいる。

金森商店

卵・乳製品不使用で、県産の無農薬栽培の小麦粉・米粉使用としつかりした味にこだわった菓子製造・販売



滋賀発祥
とびあくべ
ビスケット

家業手伝い

実家家業およびパートナーの事業手伝い 2児の母 (大学1年・小学5年)

- ①月固定給料(扶養の範囲内)を時間給換算し、自分で労働時間を調整している。
- ②フルタイムで働きたかったので結婚時も仕事を辞めたくなかったが職場結婚のため諦めた。その後の選択肢として。
- ③時間的な融通がきく。入り込みない程度に仕事の中身がわかり、親やパートナーへの理解につながる。
- ④家の中と仕事が一緒になりがちなため、自分のやりたかったことにも目を向け時間を使うようにする。
- ⑤パートナーに仕事に集中してもらうために、事務をしたり家庭内を整えたりすること。

地域活動

産後ストレスケアリストの会 運営 2児の母 (小学4年・小学2年)

- ①月1回の頻度で“ママとベビーのためのおねむりカフェ”開催と“産後ママケアルーム”をオープン。
- ②収入は必要だが、ただ収入のためだけではなく、地域活動で自己実現のため、活動をしていて嬉しいと思うことをやりつつ、収入はある程度確保するため、メインの仕事+地域活動の組み合わせを選んだ。
- ③ライフステージが変わっても予測外のことが起こっても、その時出来る範囲ですればいいこと。100%取り組めるライフスタイルになったら、これまでの積み重ね・経験をいかしていける。
- ④ワーク・ライフ・バランスをうまくとるための環境作りと常時自分で見直し、変えていくことを心がけている。
- ⑤自分と家族と社会を幸せにするためのツール。

CHECK! ~ひとつの働くカタチ紹介~

彦根拠点【Hot Hot～ほどほど～】の活動

乳幼児から中学生の子どもを持つ、彦根在住の主婦4人で立ち上げたグループ。

子育て中のママや高齢者の地域からの孤立をなくすために、世代を超えたつながりの活性化を目指しています。

★ベビー&キッズ用品のリユース ~かえっこ~★

年3回程度開催。まだまだ使える捨てるにはもったいないものを、必要な方にゆずる取組み。



Hot Hot～ほどほど～さんのお話

子育てをしている中で気になることの解決に、自分たちが貢献できている実感があります。

お金を得るために働き方ではありませんが、自分たちの暮らしの豊かさにつながっていると思います。

★学校必需品リユース★

使わなくなった制服や体操服を、譲っていただく場を設け、様々な事情で用意することが難しいご家庭へお渡しする取組み。



～共通していたことは “つながり”～

収入を得ること以上に、人とのつながりができる働き方を大切にする人が多いことがわかりました。さらに“収入+自己実現”的自分にとってのちょうどいいバランス探しが、様々な働くカタチの創造につながっている印象を受け、時間の制約が多い子育て世代女性のしなやかさと頼もしさを感じました。

これからの働き方

わたしたちにとっての「働き方改革」ってなんだろう

2017年は「働き方改革」元年と呼ばれていたけど…?

厚生労働省が唱えている『日本の企業や暮らし方の文化を変える』働き方改革だけでは、今日の前にある仕事の成果は上がりません。働き方の制度が改革されたとしても、仕事を効率よく進める前提となる、円滑なコミュニケーションが自然と生まれるわけではないからです。

日本の労働制度と働き方にある課題

正規、非正規の不合理な待遇の差 = 正当な待遇がなされていないという気持ちを「非正規」労働者に起こさせ、頑張ろうという意欲をなくす。

世の中から「非正規」という言葉を一層していく = 正規と非正規の理由なき格差を埋めていくには、自分の能力を評価されている納得感が醸成。納得感は労働者が働くモチベーションを誘引するインセンティブとして重要、それによって労働生産性が向上していく。

長時間労働 = 健康の確保だけでなく、仕事と家庭生活との両立を困難にし、少子化の原因や、女性のキャリア形成を阻む原因、男性の家庭参加を阻む原因。

長時間労働を自慢するかのような風潮が蔓延・常識化している現状を変えていく = 長時間労働を是正すれば、ワーク・ライフ・バランスが改善し、女性や高齢者も仕事に就きやすくなり、労働参加率の向上に結びつく。経営者は、どのように働いてもらうかに関心を高め、単位時間（マンアワー）当たりの労働生産性につながる。

単線型の日本のキャリアパス = ライフステージに合った仕事の仕方を選択しにくい

単線型の日本のキャリアパスを変えていく = 転職が不利にならない柔軟な労働市場や企業慣行を確立すれば、自分に合った働き方を選択して自らキャリアを設計可能に。付加価値の高い産業への転職・再就職を通じて国全体の生産性の向上にも寄与。

首相官邸HP 働き方改革実行計画（概要）より抜粋

私たちは具体的にどんなことをすればいいの？

表のように制度改革が進めば、納得感や労働参加率が向上し、生産性向上への関心も高まりそうです。また、労働市場がさらに開放されることで、年齢や国籍などを問わず、能力の高い人の活躍の場が広がる一方で、相対的に能力が低いとされる人の活躍の場はより狭くなってしまいそうです。どうやら制度改革だけでは、だれもが等しく働きがいを感じられる世の中へと、すぐに変わることはなさそうです。

では、制度を当てにせず、ひとりひとりが働く喜びを十分に感じられる職場を築くために、私たちはどんなことに取り組めばよいのでしょうか。そのヒントを株式会社いろあわせ 代表取締役の北川雄士さんにお聞きしました。

北川雄士さんってこんなひと

地元彦根出身。神戸大学卒業後、株式会社博報堂でCMの制作営業等を経て、シナジーマーケティング株式会社へ入社。人事部門の立ち上げから参画し、責任者として30名から上場を経て250名までの組織づくりや、採用・人財開発の中核を担う。

2014年独立。フリーの人事「社外人事部」として活動しながら、働くことや日々の疑問を語り合う「ぶっちゃけ！」（仮）」をこれまで115回開催。同時に都市部で働く人が地方へのリターンやIターンしたくなる仕組みづくりをしたいと思い、2015年10月、株式会社いろあわせ設立、地元彦根へリターン。「それぞれのいろを大切にし、自立して働くことを様々な角度で考えるイベントを数多く実施。

2017年4月「滋賀で活躍する人を増やす」を掲げ【しがトコはたらく】を立ち上げ。趣味は紙芝居。

Keyword

【インセンティブ】
外部から与える刺激

【ワーク・ライフ・バランス】
仕事と生活の調和

【マンアワー】
1人の作業者が一定の時間内にこなす仕事の量

【ライフステージ】
人間の一生における、壮年期、老年期などのそれぞれの段階



どのようなお仕事ですか？

滋賀県には、既に十分魅力的な職場も働いている人もたくさんいます。その会社や人を丁寧に取材して魅力を伝えるメディアを「しがトコはたらく」として発信し、滋賀に住みたい・地元に戻りたいという人のあと一歩を応援しています。

また、県や市の合同説明会やインターンシップの企画、企業人事サポートを通じて、働き手と組織が目指すべきところに向けて、お互いのことをきちんと伝えられる場づくりなども手がけています。

取材から見つけた、これからの働き方で大切な3つの取組

人それぞれに望む働き方があります。けれども、信頼と感謝のある職場で働くことを願う気持ちは同じはずです。そんな職場は次のような取組から生まれるのではないかでしょうか。

1) 伝えられる場、受け止めてもらえる場を設けること

お互いの想いを伝えられる場、受け止めてもらえる場が必要です。自分の想いをきちんと受け止めてもらえば、相手への信頼感と感謝の気持ちが生まれます。そのためには、役としてアイデアを話せること（たとえばキャスティング法）発言を否定しないルールや、発言者が不利益を被らない約束を作るなどの開かれた場作りが大事です。

【キャスティング法】あらかじめ設定しておいた役柄になってもらい、普段の自分とは違う視点に立ってアイデアを評価する手法

2) 「空気をつくる・変える」意識を持ち、行動すること

仕組みとして伝える場を作るだけでなく、話しかけやすい態度を心がけたり、話し方を工夫したりするなど、伝わる空気を職場につくる意識を、ひとりひとりが持ち、行動で示すことが大事です。

3) 信頼と感謝がもたらす3つの効果を生産性向上に活かすこと

効果① 働き手が組織の想いに深い共感をもち、前向きな気持ちで仕事に取り組める。

効果② お互いが抱えている問題を共有でき、仕事のスピードが上がる。

効果③ 管理職の人は、信頼に基づく、“任せる”管理手法を習熟でき、スタッフは期待に応えることで、働きがいを感じながら、能力を高められる。

最後に…

いろいろな事情で周りの環境どころか自分を変える余裕も持てない人もいます。それを自己責任だと突き放さず、同じ社会の隣人として、私たちにできるサポートはどんなことでしょうか？

寄り添い共に同じ方向を見ていくよというスタンスを示しながら、一方で、自分の人生は誰も背負ってくれないということを伝えていくことではないかと思います。寄り添いながら、最終的には自立できる勇気に自分で気づけるきっかけを渡してあげることではないでしょうか。

誰かのせいにしても、自分の人生が豊かになるってことはないと思うんです。自信が持てたら苦労はないし、やりたい事が見つかればよいけどそんな人は少数派なんです。みんなもんもんしながら、でもジッとしてるのもイヤ！みたいな温度感だと思います。だからこそ寄り添い「わかるわかるー」と言ってくれる場が必要なのだと思うんです。理解、共感してもらった上で、「最後は自分の人生やから、良くするも楽するも自由！頑張りや！」って言われてたら多少しんどくてもチャレンジ出来るきっかけを渡せるんじゃないかなと思っています。

第33回 彦根市男女共同参画フォーラム

テーマ：

「気づき・認め合い…自分を生きる」

2018年2月4日(日)

会場：ひこね市文化プラザ
メッセホール

入場無料

託児無料
《要予約》

手話通訳あり

- 13時00分：開場
- 13時20分：開会式
- 13時30分：オープニング
- 14時00分：講演
- 15時30分：終演予定

【講師紹介】

1950年埼玉県川口市生まれ。

東京外国語大学インドネシア語学科卒業。

競馬専門紙や、夕刊紙「日刊ゲンダイ」の記者を務めた後、退社。

5年間の専業主婦の後、仕事に復帰。以来、フリーで活動する。

1983年JRA機関誌「優駿」の優駿エッセイ賞を受賞。

1985年「気がつけば騎手の女房」で大宅壮一ノンフィクション賞受賞。

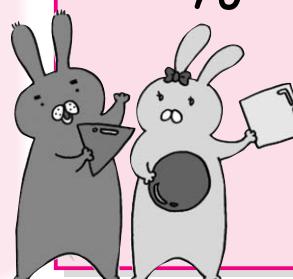
ほかには、政府税制調査会、地方分権改革推進会議、郵政行政審議会、外務省を変える会、検察の在り方検討会議委員などを歴任。



講師

吉永みち子さん

「自分を生きるとのこと」



問合せ先 彦根市男女共同参画センター「ウィズ」 TEL&FAX 0749-24-3529

ウィズ相談室のご案内



専用ダイヤル **0749-21-5151** 総合相談 専門相談
(こころの悩み・法律相談)

水・木・金 13:00~16:00

*面接相談

*電話相談

毎月第1月曜日：心の悩み相談

毎月第3月曜日：法律相談

※総合相談での予約が必要です。

彦根市のホームページに
リンクします。

☆相談は無料です。プライバシーは守られます。☆